

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

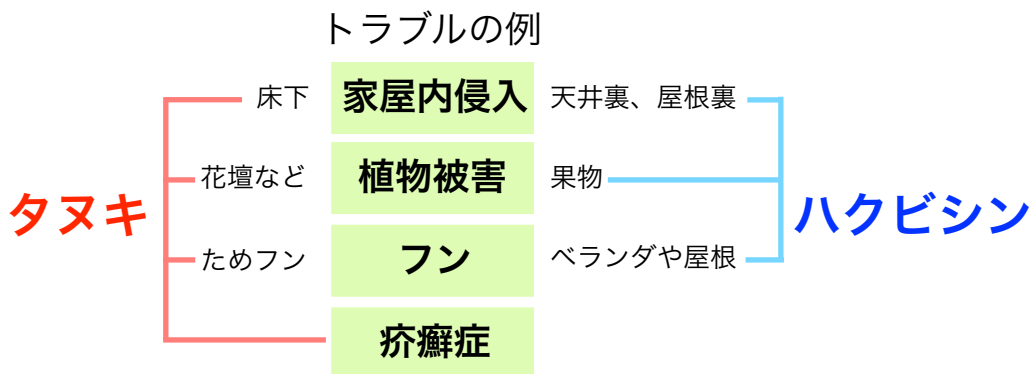
2012年8月号 通巻44号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

## タヌキとおつきあひするには

### 対策のガイドラインを公開



サルやシカやイノシシほどの被害はないものの、タヌキもハクビシンも農業害獣である。都市部でもまったく無害な動物というわけにはいかない。

2012年7月、東京タヌキ探検隊！のホームページ内で「杉並タヌキおつきあいガイドライン(私案)」を公開しました。タヌキやハクビシンは常に無害というわけではなく、時にはトラブルを起こすことがあります。その時どうすれば良いのかの指針をまとめたものです。都市部向けの内容ですが、関心のある方はぜひ読んでみてください。

#### 区がやっていることは適切か

ところで、なぜ「杉並」なのかと皆さん不思議に思われることでしょう。理由のひとつは、私(宮本)が杉並区に住んでいるからです。そしてそれよりも大きな理由は、杉並区役所が独自のタヌキ・ハクビシン対策をしているためです。

野生動物行政を担当するのは都道府県です。区市町村は本来の担当ではありません。ところが、杉並区役所はタヌキ・ハクビシンなどを駆除するために箱ワナの設置を行っているのです。これはもちろん都の指導

下に行っていることですので、違法ではありません。捕獲も無制限にやっているのではなく、被害が発生した場合のみに限っています。しかし、それは税金を使ってまでやることなのだろうか、という疑問が出てきます。

また、捕獲数が適切か、ということもあります。年間の捕獲数は、タヌキ、ハクビシンそれぞれ約40頭前後です。杉並区のタヌキの生息数は150頭程度と推測されていますので、捕獲(殺処分)されるのは全体の1/4ほどにもなります。これはタヌキの継続した生息にインパクトを与えるには十分な数ではないでしょうか。では、杉並区役所がタヌキやハクビシンの生息の実態を把握しているかということ、そうでもないようです。東京タヌキ探検隊！の方がずっとよく把握しているはずですよ。

#### うまく折り合える方法を

捕獲されたタヌキやハクビシンは原則として殺処分されます。どこか

山林に放せば良さそうですが、年に何十頭も放すと現地の生態系に確実に影響を与えます。放す場所を分散させたとしても、その地元から「ここはタヌキ捨て場ではない」と抗議されるでしょう。その他いろいろな理由から殺処分が選択されているようです。

殺処分については「何もそこまでしなくても…」と思う方がたくさんいることでしょう。ならば、私たちはタヌキやハクビシンと折り合いをつけてうまくやっていく方法を考えていかなければなりません。今回公開したガイドラインがこの問題を考えるきっかけやヒントになることを願っています。

### スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>